

令和5年度 さいたま市立七里小学校 第2回学校運営協議会 議事録

- 【日 時】 令和5年11月28日(火) 9時00分～11時00分
- 【会 場】 さいたま市立七里小学校 南校舎2階 研修室
- 【委 員】 猪原 諭 (会長) 七里小学校PTA会長
平田 昭臣 (副会長) 七里小学校PTA顧問
吉田 正信 東門前第一自治会長 七里地区自治会連合会長 (欠席)
鶴谷 千法 青少年育成七里地区会長
大塚 章二 七里地区自治会連合副会長
丸山 深雪 交通安全保護者の会会長
松澤 和洋 見沼区子ども会事務局
伊藤 司 七里地区民生委員・児童委員 (欠席)
船木 まさこ 交通指導員 七里小学校元PTA会長
和田 恵美 七里小学校PTA副会長
山川 一美 七里小学校おやじの会会長
横山 彰一 七里小学校おやじの会前会長
佐々木 崇 青少年育成会東宮下支部長
保坂 泰司 校長
永井 利昭 学校地域連携コーディネーター

<議 事>

1 開会行事

- (1) 校長あいさつ 9:02~05
・2学期学校行事・地域行事、児童は笑顔で参加している。

2 学校運営の進捗状況

- (1) 学校の日々の様子(説明者:校長 保坂泰司) 9:05~15
① 学校生活と行事
② 地域の行事
・①②ともに、パワーポイントを活用して説明。
- (2) 学校課題研究報告(調査含む)(説明者:校長 保坂泰司) 9:25~35
・2授業研究の開催。
・全国学力・学習状況調査は、学習指導要領を計画的に適切に消化できているかを確認するもの。
・国語が時間内に終わらないと聞く。読むことにもっと慣れさせる必要があるか。(横山委員)
- (3) 児童会による取組(説明者:特別活動主任 荒井美耶・後期児童会長) 9:15~9:25
・5・6年生による9つの委員会+4年生以上の各クラス2名からなる代表委員が児童会。
・子ども会議を実施。気付かないうちに相手を傷付けていることがあることを学んだ。
・後期児童会長より仲よしハッピービンゴの取組とSDGsの取組の紹介。

・ハッピービンゴの内容を詳しく知りたい。(丸山委員)

→主体性を大切にするため、代表委員で話し合いながら児童が楽しめる視点で企画した。

(特活主任)

・取組に後ろ向きな児童への対応は？

→100%を求めず、クラスの士気を高めながら、9割主義で取り組んでいく。(特活主任)

・評価はどの程度するのか？

→1日単位。表彰することでよりよい仲間づくりを推進する。(特活主任)



(4) 読書月間(11月)(説明者:学校図書館主任 菊地悟恵) 9:35~9:40

・図書委員の活動紹介 児童おすすめの本の紹介の取組 大宮お話箱の取組

・読むのに抵抗がある児童に対しての指導は?(丸山委員)

→好きなものが見付かるような声掛けをしている。少しでも読んだことをほめるようにしている。本を読んだ後の感想は、内容に関わらずどの感想も大切にしている。(学校図書館主任)

・タブレットで読む児童は?(横山委員)

→现阶段では、図書館の書架にある紙ベースの本を読ませている。(学校図書館主任)

(5) 保健(説明者:保健主事 錦織佳奈) 9:40~45

・疾病通知率を上げる取組。

・学校保健委員会は体験を伴う内容で、成果が表れやすい。(船木委員)

(6) いじめ認知件数と心と生活のアンケートの結果(いじめ対策委員会)(説明者:生徒指導主任 落合和磨) 9:45~10:05

・いじめ認知件数。言葉でのいじめの傾向がある。加害児童が悪気がなく言ってしまうことが多い。

・心と生活のアンケート。3年生以上の結果。軽微なものは本人や担任と相談しながら面談の有無を判断。

・設問3について、6年生、1学期の3人と2学期の3人は、面談をとおしてどう変化したか?(佐々木委員)

→同一の3人ではない。ただ、気質上悩みやすい児童はいる。「間違えて「生きていてもしかたがない」という回答に○をしました。」にも丁寧に対応している。(生徒指導主任)

→悩みを聞いてもらいたい。1対1で悩みを聞いてほしい、と感じる児童がいる場合は、面談期間でなくても随時対応していく。(生徒指導主任)

→家庭と確実に連携をとっている。(生徒指導主任)

・児童からの「ありがとうございます。」は交通指導員として何よりの魂のごちそうである。(船木委員)

・面談とは、どんな形式なのか?(山川委員)

→本人と関係教職員で行うが、複数で対応することが多い。いのちに関わる発言は、一人

にさせない対応をしていく。見守りが必要。3者面談になることもある。来れなくても保護者と顔を合わせ、今後のことも含め、話し合ってから引き取ってもらう。(生徒指導主任)

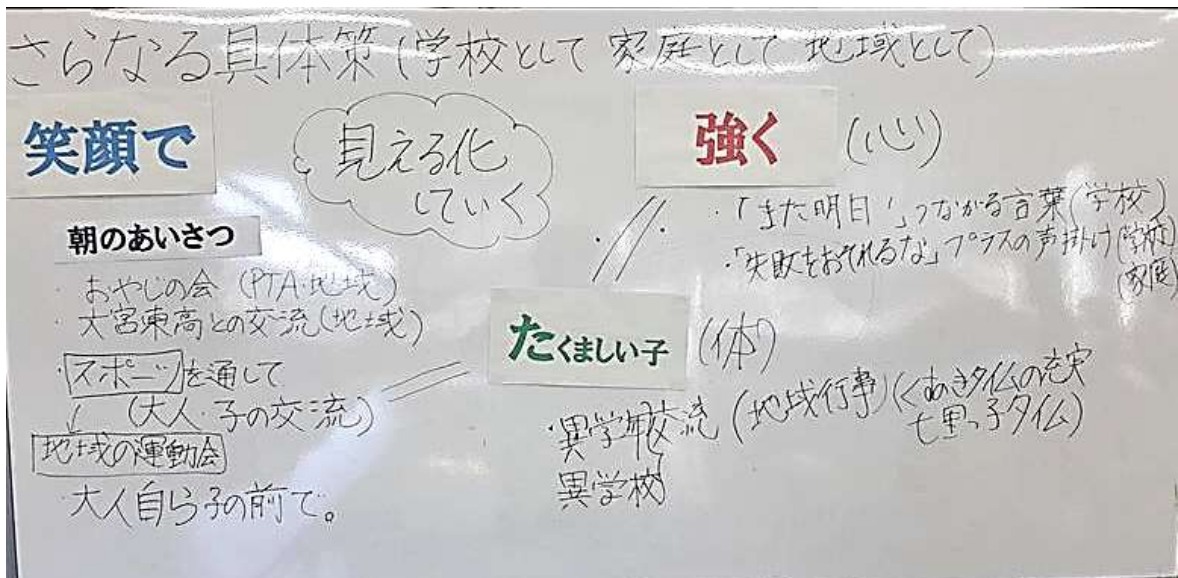
→市教委が定めた緊急度ごとに対応するのがベース。最低1週間は登下校を含め見守りを行う。(校長)

・児童の特性に地域色がある。スポーツのプレーにも違いがあるが、相手への会話のやり取りでも地域性の違いを感じることもある。誰も悪くないのに泣いている児童がいても試合が中断することもある。いじめの定義ができてよいのだが、嫌なことに対して耐えうる強さも身に付けさせていきたい。(猪原会長)

・すぐ泣く子が増えてきている。自分にとって不都合な状況に慣れていないのではないだろうか。いじめのケアはありがたいが、はねのける強さもときには必要なのではないか。「泣くんじゃないよ」が言いにくい雰囲気がある。(横山委員)

・七小よいこのやくそく。小学校の校則。より楽しく過ごすために必要な約束と考えている。

3 熟議 「笑顔で 強く たくましい子」の実現に向けて



4 連絡

- ・第3回学校運営協議会の日程
- ・学校公開
- ・学校評価

5 授業参観



6 閉会